

市町村  
紹介コーナー  
**聖籠町**  
[下越エリア]

花が咲きほころび、  
おいしい果物がたわわに実る！  
**果樹のまち聖籠町**

8月下旬から10月下旬ごろに旬を迎えるぶどうは

明治時代に栽培されはじめ、

現在は巨峰<sup>®</sup>や聖籠町が発祥地の紅瑞宝の他、

シャインマスカット、シナノスマイルなど

多くの品種を扱っています。

秋になると、ぶどうの収穫を体験するため、

大勢の観光客でにぎわいます。



**CONTENTS**

- 特集
- 02 市町村紹介コーナー  
聖籠町
- 04 発注者支援事業紹介
- 05 にいがた土木女子 (NDJ) 会議の活動紹介
- センターINDEX
- 06 新採用職員紹介
- 07 雪のことば・雪のころ
- 08 編集後記
- 08 新潟の地酒巡り  
菊水酒造  
50周年を迎える「ふなぐち」



Niigata Construction  
Technology Center

2022 夏号

**新潟県  
建設技術  
センターだより**



一般財団法人

**新潟県建設技術センター**

<https://www.niigata-ctc.or.jp/>

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18

TEL.025-267-4804 FAX.025-267-4854

せ

# 聖籠町

Seiro



## 聖籠町のプロフィール

面積／37.58km<sup>2</sup>

人口／14,119人(令和4年4月末現在)

世帯数／4,974世帯(同上)

<https://www.town.seiro.niigata.jp>

聖籠町は、新潟県の海岸地帯の北部に位置しています。また、飯豊連峰に源を発する加治川の下流にあり、穀倉地帯でもあります。町の総面積は37.58km<sup>2</sup>で、ほぼ平坦な地域です。東と南は新発田市、西は新潟市に接しています。

国際拠点港湾となる新潟東港の背後に新潟東港工業地帯があり、電気、食品、電子機器など約190社の企業が操業しています。

一方でおいしい米がつくれる田園や、砂丘地で栽培されるぶどうやさくらんぼなどの果樹栽培も盛んで、果物を収穫し、その場で食べられる観光果樹園にも多くのお客さんが訪れています。海岸ではサーフィンなどのマリンスポーツやアジ、カレイ、キス、クロダイなど種類豊富な魚釣り、夏は海水浴客でにぎわいを見せています。



## 果樹のまち聖籠町

聖籠町の魅力は、何といても豊富な果物。初夏から秋にかけて、さくらんぼやぶどうなどの摘み取りができ、その場で食べられる観光農園が人気です。直売所もあるので、聖籠町の旬が気軽に楽しめます。



## 春には桜が咲き、 冬には白鳥が訪れる 弁天瀧



聖籠町蓮野にある、弁天瀧風致公園。かつては豪農二宮家の私有地で、今は聖籠町の憩いの公園になっています。四季を通じて花の色どりを楽しみ、春には約80本の桜をライトアップした弁天瀧さくらまつりが行われています。夏には蓮の花が開き、冬には白鳥も飛来するなど、一年を通じて豊かな自然があふれています。

## 聖籠町立図書館

平成26年にオープンした聖籠町立図書館。子どもたちの心を豊かに育み、町民の生涯学習を支援するとともに、大きな屋根の下の「本のまち」で、あらゆる世代、あらゆる目的の人たちが、本と過ごす豊かな時間と空間を共有することのできる図書館を目指しています。

また、その特徴ある形状から、2015年度グッドデザイン賞を受賞しています。





## 新潟港海岸(聖籠海岸地区)侵食対策4号突堤工事

### 工事概要

新潟東港区から2級河川加治川左岸に位置する次第浜までの間を、聖籠海岸と呼びます。夏には聖籠町の海上花火大会が実施されるなど多くの人たちで賑わいます。この聖籠海岸は海岸侵食が進んでいるため、砂浜の侵食を抑え、漂砂を捕獲する効果を持つ突堤工事を進めています。

### 工事内容

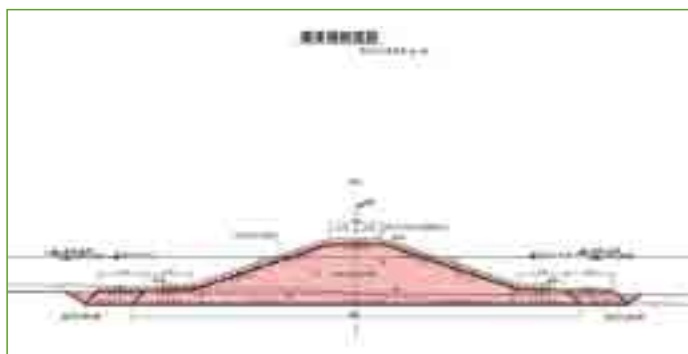
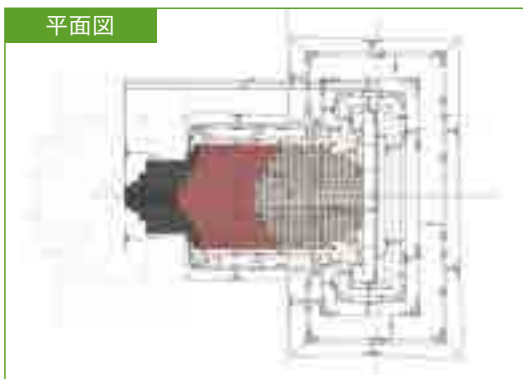
- 工事名 / 令和2年度 防安海侵 第1801-43-00-01号  
新潟港海岸(聖籠海岸地区)侵食対策4号突堤工事
- 工期 / 令和2年10月～令和3年11月
- 発注者 / 新潟県 新潟地域振興局  
新潟港湾事務所 工務課
- 工事内容 / 突堤工 1式  
基礎捨石工  $V=5,159\text{m}^3$   
異形ブロック据付  $N=294$ 個

位置図



4号突堤

平面図



立会状況



### 管理技術者 から一言

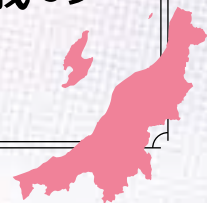
管理技術者 飯田 泰雄

当工事は砂浜の侵食を抑え漂砂を捕獲するための突堤を整備する海岸侵食対策事業であり、捨石(200～500kg)の上に被覆ブロックとして平型ブロック(4t)を施工する工事でした。

冬期風浪を避け3月上旬～8月下旬の限られた期間の施工であり、天候と工事工程、立会の日程に調整が必要な現場でした。段階確認、材料確認、施工状況把握の立会は現場代理人との連絡を密にし作業状況、進捗状況を把握した中で日時を設定し、工事が円滑に進むよう注意しました。

今後も社会資本整備のために、発注者支援業務を通して品質の高い成果が出るよう努めてまいります。

# にいがた土木女子(NDJ)会議の 活動紹介



## にいがた土木女子(NDJ)会議とは

土木建設業のやりがいやかっこよさなどの魅力を広くPRするため、  
また、女性も活躍できる仕事であることをアピールするため、  
新潟県内の土木建設業で働く女性同士が連携し、様々な活動を行うネットワーク組織。

2017年に結成され、今年で活動6年目。

(一財)新潟県建設技術センターは発足当初から連携し、  
様々な活動に参加、たくさんの女性技術者と交流してきました。

////////////////////////////////////

“にいがた土木女子(NDJ)会議”では、  
「建設業の元気を女性から」をスローガンに、  
土木業界で働く女性が自分らしく働けるよう、全力で応援し、  
交流の輪を繋ぐ活動をしています!

## 主な活動内容

- 1 交流を深める  
現場見学会の開催
- 2 土木の魅力をPR  
学校への土木出張PR・フォトコンテストの開催・PR動画の作成
- 3 働きやすい職場環境を検討  
意見交換会の開催



## 活動に参加して

発足当初、まだまだ男性が多い業界の中で、活躍するNDJの先輩たちの姿を見て、私は刺激や勇気をたくさんいただきました。そして私も後輩たちのために行動しなければいけない年代になったと思います。女性が働きやすい環境作りは、ダイバーシティを進める大きな入口でもあります。NDJで意見交換した経験を生かし、みんなが働きやすい環境をみんなで一緒に作っていきたくと考えています。

また、立場や年代を超えていろんな方とフランクにお話しできることもNDJの大きな魅力だと思います。様々な方に参加していただきたいです!

New Face!

## 新採用職員紹介

よろしく  
お願いします!



令和4年4月に採用となりました、虎澤 叡輝と申します。現在は技術部技術第1課技術第1係に配属され、公共工事発注者支援業務を行っています。生まれも育ちも新潟市であり、高校卒業後は石川県の大学で土木工学を専攻していました。

採用されてからは、毎日センターの横を流れる信濃川を平成大橋から撮影し、信濃川の変化を楽しんでいます。今までは、自然豊かな阿賀野川の方が好きでしたが、現在は胸を張って信濃川の方が好きだと言えます。また、最近新潟県の魅力を再発見すべく、趣味のドライブの際は国道よりも県道を使用するようになりました。

大学で土木について学んでいましたが、まだまだセンターの業務についていけず経験不足を痛感し続ける日々です。いち早く皆様の信頼を得られる職員になれるよう、日々精進しています。よろしくお願ひ致します。



技術部 技術第1課 技術第1係 虎澤 叡輝

令和4年4月に採用となりました、長谷川 雄生と申します。現在は技術部技術第2課技術第2係に配属され公共工事発注者支援業務を行っています。高校では、土木について学んできましたが高校で学んできた内容とセンターでの業務内容はほとんど違うため、この先やっていけるか不安でしたが、研修で先輩方に優しく丁寧に指導頂き安心して働くことができています。

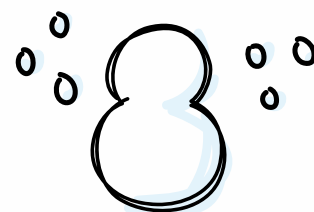
休日は気分をリフレッシュするため趣味のバドミントンやバスケットボールなどで体を動かしたり、日々の疲れをとるために温泉に行ったりしています。

まだ分からないことばかりですが、先輩方から学んだことを少しずつ実践していき、一日でも早くセンターの職員として貢献できるように努力して参ります。よろしくお願ひ致します。



技術部 技術第2課 技術第2係 長谷川 雄生

# 雪のことは・雪のころ



## 今冬(2021~22)の大雪の状況(2)

国立研究開発法人防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター 上石 勲

新潟県内は昨冬の里雪から一転今冬は山雪となりました。ここでは、新潟県の災害救助条例が適用された妙高市の状況をご紹介します。新潟県妙高市では、図1に示すように、新井地区、関山地区、妙高高原地区で積雪深と日降雪量が観測されており、標高の高い妙高高原地区では2月23日に積雪が386cmを記録しました。



図1 積雪深の変化(妙高市建設課)

妙高市では雪下ろし中の転落や除雪機による作業中の事故で重傷5名、軽傷12名の人的被害がありました。また、建物では、住家1棟、非住家の6棟、空き家の住宅4棟の計11棟が全壊したのをはじめ、半壊、一部損壊、流雪溝の溢水をふくめ、計22棟が被害に遭うなど大きな災害となりました(図2,3,4)。



図2 屋根からつららや雪の崩落の危険性



図3 大量の屋根雪と軒先の損壊



図4 大量の屋根雪による住家の倒壊

道路関係では、上信越道が大雪や大雪後の排雪作業のため延べ28回の通行止めとなりました。大量降雪で排雪が間に合わず堆雪幅が確保できない状況や、視界不良などがその原因となっていたようです(図5)。

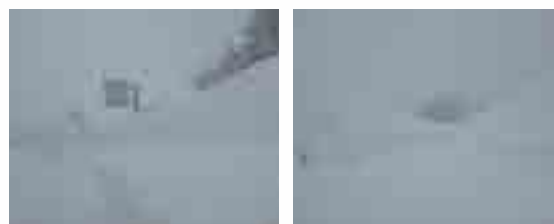


図5 大量降雪による走行可能路線の矮小化

さらに妙高市では、郊外の県道で雪崩が発生し、一時通行止めとなりました(図6)。

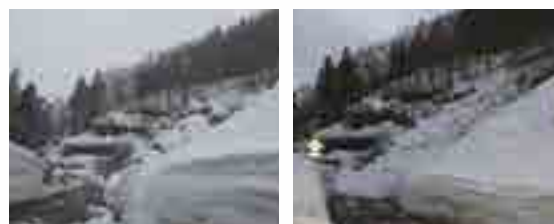


図6 県道わきの斜面からの雪崩発生(左:発生前、右:発生後)

その他、妙高市では、冠雪による倒木で停電が発生したり、公共交通機関では、地域のローカル線が長期間の運休が継続しました。

昨冬の里雪、今冬は山雪と雪の降り方は大きく異なり、雪害の傾向も変わってくるのが再認識されました。また、普段雪が比較的多い山沿いでも社会情勢の変化などにより、雪に対する抵抗力が減少していることが明らかになりました。

特集

vol.22

# 新潟の地酒巡り

全国的にも評価が高い新潟の清酒。  
そのおいしさの秘密を紹介します。

新発田市の酒蔵

## 菊水酒造

### 大地の恵みを醸す

北越後の中心に位置する城下町新発田。二王子岳が大らかに見守るこの地で当蔵は140有余年、お客様に喜んで頂けるお酒造りに勤しんで参りました。単に美味しいだけではなく、暮らしに潤いをもたらし、心を豊かにするお酒でありますよう気持ちを込めて日々醸しております。



代表取締役社長  
高澤 大介



### 北越後に根ざして140周年

菊水酒造のある新発田市の南北に開ける北越後平野は、良質の米がたくさん収穫されます。加治川周辺には豊富な地下水脈があり、飯豊連峰の雪解け水を含む清冽な伏流水とあいまって、酒造りに絶好の環境となっています。

おかげさまで50周年『ふなぐち菊水一番しぼり』

1881年創業。2021年に140周年を迎えました。日本初缶入り生原酒『ふなぐち菊水一番しぼり』を代表銘柄に、にごり酒『五郎八』、日常で楽しめる吟醸酒『無冠帝』など暮らしに寄り添う酒造りを行っています。

『ふなぐち菊水一番しぼり』は、1972年の発売からまもなく50周年を迎えます。開発当時、生のお酒はデリケートで品質が変化しやすく、市場に流通していませんでした。蔵でしか飲めないしぼりたての味を多くの人に届けたい、との思いから、試行錯誤を繰り返し、日本初の缶入り生原酒として、商品化に成功しました。以来、多くのファンに飲み支えられ、日本のみならず海外でも様々な場面において楽しまれています。

#### モノ・コトづくりの追求

菊水は、よりよいお酒を造るだけでなく、日本酒を通して楽しいことや面白いことをつくっていきたくと考えています。

その「モノ」と「コト」を融合する拠点になっているのが、「菊水日本酒文化研究所」です。有機の空間を持ち、小規模で伝統的な酒造りを行う製造エリアと、日本酒にまつわる3万点もの資料を収蔵する文化研究エリアから成り、日本酒の愉しみ方を多面的に見ることができます(蔵見学は要予約)。

私たちは、北越後・新発田に根ざし、人々の「健康」「憩」「楽」に貢献するモノ・コトづくりを追求し、こころ豊かなくらしを創造してまいります。



1.『ふなぐち菊水一番しぼり』醪(もろみ)をしぼった後、加熱殺菌も割水もしない生原酒。フレッシュな果実のような香りとコクのあるしっかりした旨味が特徴。新潟県産米を100%使用しています。2.『純米吟醸 オーガニック清酒』新潟県産の有機米を100%使用した純米造りの吟醸酒。オーガニック認証「USDAオーガニックマーク」をつけ、米国市場でも販売しています。香りよく爽やかな味わいで食中酒におすすめです。3.『無冠帝』「地位や名誉にこだわらず、一方で、高い志を持っている。」吟醸酒に対する菊水の想いを「無冠の帝王」に重ね合わせた酒銘です。キレのある味わいでスタイリッシュな吟醸酒です。



菊水酒造株式会社  
〒957-0011  
新潟県新発田市島潟750  
TEL. 0254-24-5111  
FAX. 0254-23-5255  
<https://www.kikusui-sake.com/>

### 編集後記

夏の強い日差しが感じられる時期となりました。本格的な夏はこれからですので、熱中症対策をしっかりと行い、日々をお過ごしください。

今回のセンターだより夏号はいかがでしたでしょうか。寄稿していただいた皆様には、厚くお礼申し上げます。

今後もセンターだよりを通して、当センターの活動内容や市町村の魅力をお伝えできればと思っています。お気軽にご意見やリクエストを寄せていただけますと幸いです。

今後ともご支援の程よろしく願い申し上げます。

編集委員 企画調査部 高橋 かほり